

研究課題 (テーマ)		コロナ禍における外国人住民の生活の現状と課題解決の方策	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学科	准教授	工藤里香
分担者	看護学科	教授	松井弘美
	看護学科	講師	村田美代子
	看護学科	講師	小林絵里子
	看護学科	助教	西村香織
	看護学科	助教	北島友香
	看護学科	助教	三加るり子
	看護学科	助教	村上利矢子
	看護学科	助教	岡田麻代
研究結果の概要			
<p>本研究は射水市の協力を得て射水市とその周辺の外国人住民の生活実態を把握することを目的とした。3名のキーパーソン及びそのキーパーソンから紹介を得た在日外国人へ日本における生活やコロナ禍での生活の変化などについて、計18名にインタビューを実施した。</p> <p>その結果【在日外国人とその家族の現状】【日本人との交流】【射水市に期待すること】が明らかになった。言葉の壁が大きい、生活、仕事、学校と、生活する範囲内では大きな困難はない。しかし、病院に行かざる得ない非常時などは大きな困難となり、通訳者の存在は欠かせない。一度日本で生活し、一定の仕事を得ることができれば、日本に定住するものが多い。そのため今後の在日外国人と射水市の発展を見据えて、コミュニティから1歩外に出ること、日本人との交流を促すこと、能力に見合った仕事を得る機会や援助が必要であることが示された。</p>			
今後の展開			
<p>生活をしていく中での困難な点に「医療」があることが明らかになった。また「医療従事者」を希望する者も多い。現状では医療通訳者を増やすということを課題として挙げたが、医療者となる在日外国人が増えることで、ボランティア通訳者に頼ることも少なくなり、さらに通訳するのにとどまらず、よりよい治療を提供することもできる。</p> <p>本学看護学部では現在留学生の受け入れは行っていないが、将来的に留学生や在日外国人の受け入れを検討し、在日外国人にも日本人にも快適な看護を提供できる環境を整えていく必要がある。</p>			